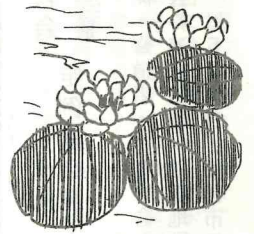


# 仙台司教区 教区事務所だより



(第 57 号)  
昭和57年7月1日

忘れてはならない // 信者をふやすこと //  
将来の教会のためにいま責任を果そう //

三位一体主日のミサで、私たちは次のマタイ福音書の最終章を読みました。

— あなたたちは行って、すべての国の人びとを弟子にしなさい。父と子と聖霊のみ名に入れる洗礼を彼らに授け、わたしがあなたたちに命じたことを、すべて守るよう教えなさい —

これはキリストが与えた使徒の使命で、いまも私たちに与えられている使命です。さつぐばらんにこの使命をいえば、「信者をふやすこと」にほかなりません。ひととき、このことは誤解されました。信者をふやすことだけにとらわれて、福音を教えるという本質的なことがなござりにされたためでした。そのため、「信者をふやすことより、福音の精神をひろめる」とか、「キリスト教のシンパをつくること」などがつよくいわれました。それも意味のあることですが、私たちが隣人の救いを真剣に考えて、福音の神髄を教え、洗

礼にみちびくことは、率直に申して布教国日本にいちばん必要なことでしょう。

◎ 仙台教区の信者は一万二千人

教勢統計が発表されました。日本の信者総数は四一、四五一人（信者とは司祭、神学生、修道者、信徒すべて）。第二次大戦以前（約四十年むかし）は同じ規模で、十万人前後と推定されるから、大きな発展でしょう。でも一億一千万人の四十万人では、まだまだの数字です。わが仙台教区の信者総数は一三、三六七人、総人口に対する信徒比率はわずか〇・一七四%にすぎません。

統計数字だけでキリストの教会をうんぬんすることはナンセンスでしょう。しかしこの数字の増大は、冒頭に述べた使徒の使命が確実に実行される結果によるとすれば、いちがいに無視すべきものでもありません。同じ時代、同じ数字だった韓国では、信者総数百二十万人を越えて、社会における教会の力には見る

べきものがあります。日本を訪問した教皇ヨハネ・パウロ二世は、日本における宣教の困難さに暖かい理解を示しました。だからこそ私たちはいつそう、福音の宣教に励まなければならぬのです。

◎ 将来の教会のために、いま！

第二次大戦後の約十年間、主に青年男女が年間一万人ぐらい洗礼を受け、信者になりました。その中から多くの司祭、修道女が生まれ、すばらしい信仰家庭がつくられました。あらゆる意味で今日の教会の中核になっています。当時の教会の努力（とくに宣教師）が、今日の教会を築いたのです。三十年、五十年たった将来の教会のことを考えるなら、いまは理くつ抜きで信者をふやすことを第一に考えるべきではないでしょうか。それがいまの私たちの責任だと思っております。

calendar

司教日程（6月11日現在）



- 7月4日 宮城県信徒大会（仙台・白百合）
- 5日 教区司祭団役員会
- 9日 スベルマン病院理事會
- 11日 北仙台教会堅信
- 14日 社会福祉法人理事會
- 16~17日 司教協・財務委員会（東京）
- 26日 教区司祭団月例会

'82年間目標

家庭から社会に  
キリストの平和を  
(仙台教区)



宣教五十周年を祝う



〔青森〕 青森市石江のハンセン氏病専門治療施設国立療養所松ヶ丘保養園にある松ヶ丘カトリック教会(篠田教会巡回)では、去る5月20日宣教50年と献堂25周年を祝い記念ミサと祝賀会を関係者多数出席のもとに行つた。

ハンセン氏病が不治の病といわれていた昭和6年、ドミニコ会のペルトラン・デルエン神父が布教を始めて今年で50年。その間多くの司祭の献身的働きと、初代信徒達の熱心な信仰生活が病に苦しんでいる療友達を励まし多くの人々に信仰の種を蒔いた。これまで受洗した人は百四人、現在の信徒数は六十人、大部分が中高齢年者であり、病と闘いながらケベック外国宣教会のデュベ・ジル神父の司牧の下に力強く信仰生活を続けている。

感謝のミサは、仙台教区長佐藤千敬司教の司式で同日午後1時から献げられ、ケベック会の司祭らが共同司式をした。

祝賀会では当日のミサの献金はフィリピンのタラの療養所でハンセン氏病と闘っている人達に贈られると発表。また去る4月16日に、園内で91歳で天寿を全うした李明朝さんが国費の手当を節約して残した四百万円の内、故人の遺志で三百万円を園内施設費に、百万円を李さんの故郷、韓国釜山市の近くにあるルカ村ハンセン氏病療養所に贈られたと紹介。その兄弟愛は広く国外にまで及んでいる。

宮城県信徒連絡協議会

設立総会 開く



〔仙台〕 久しく組織化が待たれていた宮城県内教会の連合組織となる「宮城県信徒連絡協議会」の設立総会が5月30日、仙台市の元寺小路教会信徒館で開催された。総会は午後2時20分から神の恵みを祈つた後、新村信雄仙台地区教会代表者合同会議議長(の会則と設立までの経過報告、佐藤千敬仙台教区長の祝辞があつて、役員選出などの議事に入つた。その結果初代会長には新村信雄氏(八木山)を決めたほか、次の通り新役員を選出した。▽副会長 小野英夫(一本杉)、大泉計一郎(大河原)▽仙台教区司牧評議会評議員 新村信雄(八木山)、篠野満男(北仙台)▽事務局 渡辺清(元寺小路)

主催行事となる宮城県信徒大会(7月4日 仙台北百合学園高校)については本年度は仙塩地区教会代表者合同会議に一任し、来年度大会については協議会の財政面も含めて今秋の臨時総会で検討することにした。

最後に司祭団を代表して深沢守三神父(西仙台)が祈りと祝福のことばをのべ閉会した。

仙塩地区教会

代表者合同会議

定例総会開く

〔仙台〕 信徒・修道者・司祭を含む仙台・塩釜両市8教会の連合組織「仙塩地区教会代表者合同会議」は5月30日、仙台市の元寺小

昭和57年度 四旬節愛の献金

全国集計 6,200万円こえる

仙台教区内5施設にも配分

今年度の四旬節「愛の運動」募金の集計が、カリタスジャパンから発表された。それによると、5月13日現在で総額6,259万2,178円、仙台教区からは3,06万7,473円の愛の献金が集められた。このうち海外に1,740万円、国内の37施設に3,971万2,700円が配分。仙台教区関係では青森の藤聖母園、福島(の保育園聖母愛真会、カトリック関係外の施設では弘前のボランティア協会、宮城県の難病者の実態を社会に提起する「ありのまま舎」(映画「車椅子の青春」製作)、精薄児。者施設「カナンの園」の合計五施設に総額709万円が贈られた。

路教会信徒館で57年度定例総会を開催、今年度の主催行事を次のように決めた。

- ①宮城県信徒大会・7月4日(於仙台・百合学園高等学校)
- ②合同運動会・9月19日(ラ・サールホームグラウンド)
- ③仙台広瀬川殉教祭・58年2月27日(元寺小路教会からロザリオ行進と殉教碑前での祭典)

今年度の役員は次のとおり。

- ▽議長 佐々木正吾(塩釜)▽司祭 深沢守三(西仙台) 村首 ステファノ(鶴ヶ谷伝道所)
- ▽修道者 下山茂夫(ラ・サール会)▽信徒 中村信忠(元寺小路) 渡辺公一(東仙台) 藤村重文(北仙台) 斎藤弘生(豊屋丁) 片倉誠(西仙台) 小野英夫(一本杉) 新村信雄(八木山)▽事務局 渡辺清(元寺小路)



青空のもとと熱戦

仙台・カトリック三校定期戦

△仙台V 仙台市内のカトリック三校の親睦を目的にする、仙台カトリック三校定期戦はこととして十六回目を迎え、去る5月26日、仙台市の宮城県スポーツセンターなどを会場に、にぎやかに開催された。主会場のスポーツセンターでは、ドミニコ、ウルスラ、白百合の三校応援団がはなやかに応援合戦をくりひろげる中、バスケット、バレーの対抗戦が行われた。結果は、バレー、バスケット、テニスがドミニコ、卓球は白百合、バドミントンはウルスラが優勝、総合優勝は第十回以来の六年ぶりで聖ドミニコ学院が獲得した。なお、バドミントン三年連続優勝の、ウルスラ学院は試合前に表彰されたが、今回は圧倒的な強さを自せ、6月の宮城県高校総体でも優勝した。

第三回福島県

カトリック青年の集い



福島県カトリック青年の集いが、去る5月1日から三日間、桜の聖母短大あかしや館で行われた。参加者は松木町、野田町、郡山、須賀川、会津若松各教会から総勢45人。指導は北仙台教会のペロー神父、助手としてドミニコ会神学生も参加してバラエティーに富んだプログラムがくり広げられた。ペロー神父の講話はわかりやすく、「神様をなめんなよ」の話はかなり強烈に参加者の印象に残ったよ

うだ。ミサの聖歌はフォーク調で若者達を喜ばせた。最終日には全員でバレーボールに興じ、司祭、青年達ともども熱戦を展開、応援合戦も加わって最高の盛り上がりとなった。地域的に広い福島県の各地から集う「青年の集い」は年々充実してきている。

平和のための

「祈りと活動」活発



盛岡地区では、岩手カトリックセンター（アントニオ・ツルゲル神父）が中心となつて教皇ヨハネ・パウロ二世の世界平和の呼びかけに応えて次のようなさまざまな平和運動を展開、第二回国連軍縮総会をひかえ、平和を求める運動が全国的に広がっている時でもあり、盛岡市民に深い感銘を与えた。

4月18・25日、「核兵器完全禁止と軍縮を求める署名運動」（盛岡三教会合同で街頭署名に立つた結果二千人の署名を集めた。）

5月19日、「光州事件の犠牲者のためのミサ」

韓国光州事件の二周年に当る19日、韓国人達のため心を合わせて祈った。

21日、「映画と世界平和を祈るミサ」被爆映画「にんげんをかえせ」と、反核映画「明日への伝言」の上映と世界平和を祈るミサの奉獻

21日/23日「被爆パネル写真展「戦争はまっぴら」

「寿庵祭」盛大に祝う

「キリンタン」研究家

「チースリク」神父 招き



△岩手V 水沢教会恒例の後藤寿庵大祈願祭は5月30日水沢市福原の寿庵廟（びょう）で今年も近県からも参加した約三百人の出席のもとに祝われた。式典は午前10時からローネル神父の田畑の祝別で始まり来賓の祝辞を受けた後、司教総代理三浦平三神父を中心にベトナム宣教会管区長ツルゲル神父ら約10人の司祭が共同で感謝のミサを献げた。説教は、水沢は七年ぶりというチースリク神父（イエズス会）。寿庵の生活とその信仰と業績を、同神父の研究の史実をもとに話した。

なお、今回は寿庵廟の側の建物で、「後藤先生の水路工事とその後の発展」の展示会が胆沢平野土地改良事務所主催で開かれ、教会と地元との深い結びつきをさらに認識させるものがあつた。

御礼

5月8日未明の本学院仮校舎火災に際しましては大変お騒がせしご心配をいただきましたことを深くお詫び申し上げます。東北地区カトリック諸学校や各修道会を始め多くの方々の暖かいお見舞いをお寄せ頂き勇気づけていただきましたことを有難く存じております。おかげさまで、今では平常の落ち着きを取り戻しました。厚く御礼申し上げます。

（仙台・聖ドミニコ学院一同）

お知らせ



●仙台教区、夏の青少年合宿・練成会予定

・福島浜通り地区合同キャンプⅡ〔場所〕五浦ドミノの家、〔日時〕小学生18月初旬、中・高校生18月中旬、それぞれ二泊三日。

・平教会Ⅱ〔場所〕平教会伝道館、〔日時〕小学生7月下旬、中学生は検討中。

・宮城県中学生合宿Ⅱ〔場所〕花山少年自然の家、〔日時〕8月3日～6日。

・宮城県高校生合宿Ⅱ〔場所〕米川公民館、〔日時〕8月10日～13日。

・岩手県高校生合宿Ⅱ〔場所〕大船渡カトリック教会、〔日時〕8月11日～13日。

△テーマⅤ「平和」

・青森県中学生合宿Ⅱ〔場所〕八戸・白菊学園、〔日時〕8月8日～11日。

・青森県高校生合宿Ⅱ〔場所〕クリスチャン・トレーニング、〔場所〕弘前大清水学

福島県浜通り地区連絡協議会主催のレクリエーション大会が、5月30日(日)、午前11時から勿来須賀海岸で平、小名浜、湯本、勿来の四教会から50人とあひる三羽が参加して行われた。

会場は風光明びな砂浜と松林にはさまれた草原、先ずは餅つき大会で開会宣言、つきたての餅(おろし餅、納豆餅、あんころ餅)と豚汁で腹ごしらえの後、子どもと若者は海岸でスポーツや貝拾い、熱

福島県浜通り  
合同レクリエーション大会

園、〔日時〕8月1日～4日。

●黙想会 △聖ウルスラ会主催Ⅴ

テーマ「私はどこに呼ばれているか？」

その一〔場所〕京都府宇治市木幡赤塚65カメル会黙想の家、〔日時〕7月24・25日、△指導Ⅴ外川真見神父(イエズス会)

その二〔場所〕東京都世田谷区若林3-10-11、ケベック・カリタス会。野菊の家、〔日時〕8月14・15日。

詳細は(86)5912聖ウルスラ会Sr梅津まで

●CLO黙想会(主催・CLO仙台支部)

〔場所〕仙台市東仙台6-18-15旧司祭館、〔日時〕8月24～28日イグナチオの霊操による黙想会。通勤しながら夜指導を受けることもできる。詳細は(86)5912Sr梅津まで。

●電話番号変更のお知らせ

八戸・イメルダ幼稚園の電話番号は八戸局(45)1993に変更しました。旧来の(22)2228

は塩町カトリック教会専用電話となり、切り換えはできませんので、ご注意下さい。

年者は天幕の中でよもやま話、教会内の出来事から嫁探し、カナの会の説明、家事のやりくりから布団や綿の手入れまで(綿の専門家吉村昭三氏在り)広範囲にわたり、またとない交流の場が与えられた。会場の準備やその他の諸事は勿来教会の婦人会が引き受けてくれ好評だった。来年もこのような楽しい集いを開こうと話しながら閉会した。

(古田 繁男記)

「神に向かう心」―高校生・一般向―

森一弘著 中央出版社(千四百円)

祈りとは何だろう。人は神との語らいを通して生きる道を識る。本書は祈りがどんなものかを体験させてくれる。

「愛することをなぜ恐れるのか」(一般向)

シオンパウエル著 林義子訳(近刊)

愛を過保護と過干渉に置き換え、自己とのモノロークに慣れた現代人は、自分を賭けて他を受け入れる情熱に乏しい。本書は現代人の自己のイメージを問い直す話題作である。

読書案内



マリアさまを見た少女「ベルナデッタ」

文・坂牧俊子 絵・矢車涼 (千円)

小学生低学年向き。

苦しむ人に心と体のいやしを与える現代の奇跡ルルドの泉、この恵みの使者となるためマリア様へ選ばれ、伝言を受けた少女ベルナデッタの生涯。

「クオ・ヴァ・ディス」―中・高生向―

シエンキエヴィチ原作 藍真理人作画

紀元一世紀のローマ、キリスト信者迫害のさなかにくり広げられる愛のロマンス。青少年向きで三巻よりなる戯画集。

¥450



● ボランティア活動を考える

高橋 公義(ドミニコ学院)

ある日、同僚の先生がこんな話をしてくれました。「最近の生徒は家に遊びに来て、食事の後片づけをしないんですよ」。また私自身が聞いた話だが、生徒の中で自分の弁当を自分で作って来る者は非常に少ないということだ。調理はもち論、盛り付けさえも全く母親にまかせて自分は出来上がった弁当を持参するだけだという。この二つの例が示すことは、最近の女子高校生の安易で自己中心的な生き方をはつきり表わしているといえる。

しかし反面、最近のボランティア活動に対する若者達の認識が高まり、活動もかなり活発化していると聞く。ふだん漠然と過ごしている生徒が、ボランティア活動を通して社会に貢献しようという考えは結構な事だが、その前に自分自身をよく見つめ直してほしい。自分の事を一人で行なえない者が他人の世話を良くできるであろうか。不幸にも他人の助けを必要としている人々は、決して哀れみや同情だけで接してほしいのではなく、心身共に健全な人の理解と援助を望んでいるのだ。ボランティア活動とは、単なる手助けだけではなく、そうした人々に、強く正しい生き方を実践することで無言のうちにも勇気と励ましを与えることもある。

ボランティア活動をしようとする高校生は、まずボランティアの真の意味を理解し、善意の輪を大きく広げながら継続していつてほしい。

読者のへえじ

● 教会学校修養会に参加して

会津 隆司(四ツ家教会)

「友のために命を捨てるキリスト、コルベ神父」というテーマで、三月末に二泊三日のスケジュールで、教会学校の修養会が持たれました。この修養会に初めて参加して何よりも強く感じたのは、この子ども達も生きていく、成長へのすさまじいエネルギーを持つているということ。場面によつてはリーダー達がこのエネルギーに圧倒されて困惑することもあつたように思われます。しかしリーダーを困惑させることがあつたとしても、子ども達の活力は尊いものです。

私もリーダーの一人として子どもを目の前にして無力感にさいなまれることがありますが、子ども達と共にイエズスさまとの交わりを深める事の大切さに気づく時、その無力感も和らぎます。リーダーといつても、日々を悩み苦しみながら過ごしている一介の信者に過ぎません。子ども達を十全な意味で指導できるほど靈的に成長し切つてはいけません。むしろリーダーに求められるのは、何よりも子ども達自身と出会うことではないでしょうか。活力に満ちた彼らと行動を共にして彼ら一人ひとり目に見えない絆で結ばれていく時、初めて心の交流が生じて来るのではないのでしょうか。この修養会で今更ながら子どもと一緒に遊ぶことの大切さを確認しました。ともに遊ぶことがとても感動し、ともに祈ることへと連なつてゆくように思われるのです。



岩波ホールで上映中の、「早池峰の賦」(羽田澄子監督)を見た。「東京まで映画を見に来た」と友人たちはあきれ顔である。

五月半ば、テレビで羽田澄子さんが映画作りについて語っていた。「もんしろちょう」の撮影の時は野菜作りからはじまり、ちょうを幼虫から育てたという。面白いと思つた。「早池峰の賦」ではヤマ場づくりを意図的に避け、映画を見た人各人が何かを発見してくれるといいとも語っていた。

岩波ホールは週日にもかかわらず満員であつた。神楽の舞、早池峰山そして日常の風景が淡々と交錯する画面の中に、いつの間にか引き込まれていった。

この迫力はいつた何だろう?!  
早池峰神楽もさることながら、それを捉えた羽田澄子さんのすごさにちがいない。彼女は語る。「人に役立つ人生とか、自分ばかりあらねばならぬと心得ていたもの、それらが妹の死を送るなかでばらばらとほだけ散つてしまった。もはやあるがままの自分と自分が感じたものを、いかにあらわせるかだけに、忠実にみてみよう。そうした心境のなかでこの作品をとつた」と。

(狼河原)





かたく閉ざされた煉門、うつそうと繁る庭には数棟の土蔵が建っている。町いちばんのにぎやかな商店街の真ん中であって、油ゼミの大合唱に明け暮れる約一千坪のお屋敷は、おらが築館教会の創始者、大庭征露先生の邸宅である。――やがてその門が静かに開かれ、近所の子どもたちがもの珍しそうに、おどおどしながらお屋敷に出入りする日が多くなった。間もなく、その子どもたちも泥にまみれて庭いっぱい遊びまわるようになる。終戦直後の頃であった。

当時、京都から療養をかねて疎開していた実姉の佐々木幹子さんが、遊びに来る子どもたちに少しずつ神さまのお話しをするようになった。こうして大庭一族挙げての布教が始まったのである。座敷を改造して昼は保育園、夜は大人のための哲学講座から教理の研究会など。聖マリア愛児園、アロイジオ学院の看板も門柱にかかげられた。

荒廃し切った戦後の混乱期に、人びとに生きる目標と勇気を与えるために始まった大事業である。講師には遠く東京から、上智大学

のホイベルス神父やボッシュ神父、東北大学の先生がたなど数多くの学者や著名人が招かれた。こうして教会づくりの足固めがすすめられたのである。

昭和二十二年の暮れには、大庭邸の座敷いっぱいに町内の人びとを招いてクリスマス集いが催された。愛児園児や求道者による聖劇、遊び、聖歌など、はじめてクリスマスの意義を知った。外の雪や寒さなどにはかわりなく、楽しさの中に伝道の芽は大きくふくらんだ。

土蔵を改造した聖堂が建てられた昭和二十三年、初代トラン神父が赴任、大庭先生の実弟千葉大樹神父の手伝いもあって、最初の信者が誕生する。その間、一関教会のグエイツト神父が毎日毎夜のように訪れ、信者同士の交流も繁く、大きな力、大きな輪となつて今日の基礎を作つたのである。

座敷を利用した貧弱で手狭な愛児園舎は、トラン神父と大庭先生との献身的な努力で、全国的にも稀な園舎が完成（数年後幼稚園に切り替へ）。教会と幼稚園経営相まって、歴代司祭の司牧と布教への強力な基盤となつた。

宮城、岩手、秋田の県境をなす雄大な栗駒山を眺望する宿場町として栄えた人口一万七千余の町の中央にある小さな教会。地場産業に乏しく、若者は進学就職のため都会に出る傾向が強く、信者の数もいつしか一〇〇余と減少、大人と子どもの教会という感が深くなつてきた。若者や学生の少ない教会は活性に乏しいと寂しい思いがつのる。

しかし、現主任司祭梅津生神父はこう訴える。「私たちが模範とすべきは初代教会の信者たちの熱意である。信者の少ないことから生じるさまざまな困難があることをしつかりと見つめ、教えを伝えること、兄弟としての一致を保つこと、共にミサを捧げること、みんなで全力を尽くそう。この地域で神への感謝の祭りをキリストと共に捧げることの意義は大きい。大人も子どもともにキリストの復活を証ししながら、一人でも多くの仲間を作っていこう」。

今、月二回を子どもたちのためのミサと学習。大人のための聖書研究を毎週。火曜日は求道者のための教理研究等々。その多くは次代を担う子どもたちの信仰をいかにして家庭の中で、いかにして教会ぐるみで育てていくかに重点をおいて頑張っているのである。神様の豊かなはからいと恵みとにより、大庭先生一家の残したこの教会の発展を願いながら。

(文責・鈴木)

司教区事務所

夏期休暇のおしらせ

教区事務所では、左記の期間休ませていただきますので御了承下さい。

自 57年8月2日(月) 至 8月14日(出)

仙台司教区事務所だより第57号  
 発行所 仙台司教区事務所  
 980仙台市本町一丁目2番12号 TEL 0222 22 7371